

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する生徒を育む学校

<生徒に育みたい力>

1. 基礎学力を高めて自ら進路を切り開く「ちから」を育みます。
2. 社会体験を通じて、地域に貢献する「ちから」を育みます。
3. 命を大切にする「こころ」、人権を尊重する豊かな「こころ」を育みます。
4. 規範意識を身につけ自立する「ちから」を育みます。
5. 格差に挑み、希望と誇りを持てる「ちから」を育みます。

2 中期的目標

1. 学校改革の取り組み

- (1) 平成 29 年度全学年 ES（エンパワーメントスクール）の確立を見据え、人権教育を中心とした教育実践及び「障がいや理由とする差別の解消の推進に関する法律」による合理的配慮の実施と「ともに学びともに育つ」学校づくりを推進する。
 - ア 30 分授業「学びなおし」学習を含めた基礎学習の定着と 10 分学習の定着を図るとともにエンパワメントタイムのさらなる精選を図る。
 - イ 生徒それぞれの課題に対して、具体的・迅速的に生徒支援がなされるよう、外部団体の連携強化と生徒支援委員会の充実を進める。
 - ウ 「校訓」<一、礼節を重んぜよ 一、責任をもて 一、親切であれ>を学校教育のモットーとして生徒、保護者、教員、地元地域が一体となって学校改革、生徒支援の充実を図る。
 - エ 教室・廊下・トイレなどの学校教育環境の整備・充実を図る<毎月 19 日は～西成クリーン day～実施>
※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目、27 年度 2 年生肯定感 63%から 28 年度 3 年生肯定感 70%をめざす

2. 進路を切り開く確かな学力と人間力の育成

- (1) 西成高校の生徒実態を踏とまえた、「めざす西成高校授業像」を確立し授業力向上を図り学力の定着をめざす。
 - ア NAC（西成一步前委員会）が中心となって、授業アンケートを活用した授業改善に積極的に取り組む。また、授業研究・授業改善に対する校内研修体制を確立する。また、26 年度末に策定した「西成授業改善基本プラン」からさらに改定を進めるとともに、教育センターとの連携強化と「西成授業改善チーム」を発足させて具体的改善を進め、さらなる授業力向上を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 27 年度 2 年生肯定感 62%から 28 年度 3 年生 70%をめざす。
- (2) 進路指導年間計画を充実させ、チャレンジ（総合的な学習の時間）や LHR 等を連動させてキャリア教育、人権教育、高大連携含めた計画を立案する
 - ア ES・総合学科への改編を進める中で、「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の充実と教育委員会及び ES5 校連携強化を進め、3 年間を見通した進路指導計画を確立する。
 - イ 地元中小企業家同友会・Cステップ等外部団体・大学との連携及び人材を活用して、主体的に進路選択ができるよう様々な機会を設定する。
※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 27 年度 2 年生肯定感 72%から 28 年度 3 年生 80%をめざす。また、学校斡旋就職決定率 6 年連続 100%をめざす。

3. 規律・規範の確立と豊かな心の育成

- (1) 生徒が主体的に規範意識やモラルや「命を大切にする心」の醸成を高める取り組みを組織的に推進する。
 - ア 「自分に厳しく、人にやさしく」！他人をおもいやり、公共のマナーやルールを守るなど規範意識の醸成を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して、自分の生活習慣はよくなっている」項目で平成 27 年度肯定感 2 年生 56%から 28 年度 2 年生 65%をめざす。
- (2) 学校行事や部活動を通じて、生徒間、生徒と教員間のつながりを深めて互いに信頼し尊重できる人間関係の構築を図る。
 - ア 生徒会活動、学校行事、部活動など生徒の自主的活動の取り組みを活性化させる。特に部活動は重点的に活性化させる。
※平成 27 年度部活動の入部率 38%から平成 28 年度 40%をめざす。
- (3) 人権教育、シチズンシップ教育を充実させる。
 - ア 人権意識のさらなる向上を目的に ES・総合学科への改編も含めて 3 年間を見通した人権教育推進計画を策定するとともにシチズンシップ教育を確立する。
※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切にし、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 27 年度肯定感 2 年生 72%から 28 年度 3 年生 80%をめざす。

4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり

- (1) 平成 26 年度策定した地震や津波対策を含めた防災計画を平成 27 年度精選した。今後地元住民や障がい者を含めた危機管理体制の確立をめざす。
 - ア 平成 26 年度策定した地震や津波に対する行動マニュアルを基本に、生徒が自らの命を守る「主体的に行動する態度」を育成する防災教育を推進する。
- (2) 生徒支援（教育相談）体制を一層充実させ、生徒・保護者に対する支援活動ができる体制を充実させる。
 - ア 西成高校の生徒・保護者の実態を踏まえ、課題を抱えた生徒や保護者に対して、スピード感をもって適時・適切な指導体制の確立と地元地域団体・福祉施設・他の行政機関・NPO 法人などとの連携協同体制をつくる。
 - イ 毎月一回開催されている地元のケース会議や連絡協議会に今年度も継続して参加し、情報を共有しての支援を強化する。
※生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成 27 年度 2 年生肯定感 66%から平成 28 年度 3 年生 75%をめざす
- (3) 広報活動を活性化させ、地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。
 - ア 中学校等への広報活動を充実するとともに、本校に対する要望や評価を把握して改善につなげる。
 - イ 平成 27 年度刷新したホームページの更新スピードをさらにアップさせ、中学生や保護者への情報発信を強化する。本校生徒や保護者に対しても学校メールマガジン等を充実させて情報発信を充実する。
 - ウ 平成 28 年度第 10 回を迎える地元中学校と連携した「西成教育フェスタ」をさらに充実させ西成区地域社会教育力向上をめざす。
※平成 28 年度学校教育自己診断で「西成高校はホームページをみたことがある」保護者の肯定感 60%をめざす。

5. 学校運営組織の再構築

- (1) 平成 29 年度全学年エンパワーメントスクール（総合学科）への改編を見据えた学校運営組織を再構築する
 - ア 校務分掌体制の再構築については、機動的な分掌業務推進を目的に 4 分掌を教務グループ、生徒指導グループ、進路指導グループ分掌に再編して下部組織として保健部・特別活動部・広報企画部・総合学科部 4 分掌体制に整えて実施する。また、役割分担・責任・権限を明確にする職務体制を確立する。
※1～5 までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率 8%未満をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 学校改革の取組</p> <p>・「西成高校に入学して満足している（生徒）」では、H27 年度 2 年 61% から H28 年度 3 年 65% と肯定感が向上した。西成高校の粘り強い寄り添う教育の成果と考える。</p> <p>・教員向けにおいて「西成高校の教育活動には、他校にはない特色がある」項目については、今年度 90% 近くの肯定感があり、モジュール授業やエンパワメントタイムなど E S 確立に教員が一丸となって取り組んだ表れである。</p> <p>・トイレや廊下・階段などの教育環境の美化については、例年教員向け、生徒向けともに肯定感が 30% 以下であったが、西成クリーン Day など設定して取り組んだ成果が徐々にあらわれ、50% 以上の肯定感向上にはつながった。</p> <p>2. 進路を切り開く確かな学力の育成</p> <p>・授業力向上 PT が主体となり他校への見学、生徒むけに授業アンケートを実施し、12 月には全教員での授業研究など研鑽を行った。生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 27 年度 2 年肯定感 62% が平成 28 年度 3 年 62% と変わらなかった。今後、生徒がわかりやすい授業づくりについての分析が必要である。</p> <p>・現 3 年生については、2 年次より面接指導やチャレンジや LHR の授業を活用してキャリア教育の充実をはかった結果、生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 27 年度 2 年肯定感 72% から平成 28 年度 3 年 78% に達した。</p> <p>3. 規律・規範の確立と豊かな心の育成</p> <p>・教員全体での登下校時の交通安全指導、生徒会・部活動部員による早朝挨拶運動等によりあいさつまナーは向上し、遅刻数も減少している。「西成高校に入学して生活習慣はよくなっている」項目の結果は 1 年 57% 2 年 41% 3 年 58% となっている。</p> <p>・ユニバーサルデザインと人権教育の充実と教員間外部機関との連携の結果から生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切に、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 27 年度 2 年肯定感 72% から 28 年 3 年 73% と向上したが目標には達しなかった。</p> <p>1 年生 66%、2 年生 54% で今後エンパワメントスクールとしての新たな意識づけが必要と考えている。</p> <p>4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p> <p>・生徒情報の一元化、となりカフェ等の外部団体との連携強化及び迅速な課題や支援対応によって生徒相談体制が充実した結果、生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成 27 年度 2 年肯定感 66% から 28 年度 3 年 68% と少し向上した。</p>	<p>第 1 回 (6/17)</p> <p>○H28 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改編 2 年目がスタートしたが、次年度全学年総合学科となる重要な時期であるのでこれまで以上に、それぞれの部署で計画案に沿って取り組んでほしい。 ・今年度は教育フェスタが 10 回を迎えるが、開催が続くように西成高校が中心となって地元地域との連携を強化して実践活動が向上するよう頑張っていたきたい。 <p>○生徒の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E S 2 期生 (43 期生) も新入生アンケート (生徒実態の背景) から、課題の多い生徒の入学がうかがえるが、SC やソーシャルワーカーの活用と地域や出身中学校と連携を深めて支援してほしい。また、地元中学校や地域団体も応援する。 ・校長からの報告から、今年度は授業力向上 PT を立ち上げて積極的に取り組むことで、よりわかりやすい授業をめざして中退防止につなげてほしい。 ・40 期生 (28 年 3 月卒業) の進路希望は 7 割就職で例年と変わらない。持ち前の教員の結束力で、ぜひ 6 年連続学校幹旋就職率 100% めざしてほしい。 ・今年度は、校内での居場所作り活動が「予算」の関係で実施が未定であるが、学校と NPO 団体との努力で回数が減少するが少しでも開催してほしい。 <p>・第 2 回 (11/18)</p> <p>○今年度の学校の取組みについての進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点進路状況、学校幹旋内定状況は内定者就職希望者 84 名のうち 74% を受け、さらに粘り強く教員一丸で取り組んでいただいて目標を達成してほしい。 <p>○体育祭や文化祭について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭の行事にも積極的に参加しているとのことにはすばらしい。また体育祭では保護者席が足らずに新しくテントを立てたとのことだが保護者の方の参加が多いことはたいへんうれしく思う。 ・文化祭でこれだけの取り組みがなされているなら、地元地域の住民の方や小中学校生を招待してはどうか検討してほしい。 <p>○部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽音楽部、吹奏楽部が地元地域で積極的に発表活動していることに感謝したい。また参加人数は目標に達していないようだが、充実した活動内容や活躍に敬意を表する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月の 880 万人訓練同日に津波対策として、天王寺公園へ車いす使用生徒含む学校保健委員及び有志による訓練を実施したことは素晴らしい取り組みであるので、継続を検討してほしい。 <p>第 3 回 (1/20)</p> <p>○今年度の学校の取組みについての報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の報告から、保護者のアンケート回収率が 78% の数値は素晴らしいことで保護者の学校の取組みに関心が高い証拠である。また、本日授業見学したが非常に落ち着いている。ただ、生徒の姿勢として幼さが感じられるので、社会人力向上を含めた指導及び授業力向上にさらなる研鑽を図られたい。 <p>○進路指導の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/20 現在、学校幹旋就職希望者決定は 77%、目標の 6 年連続 100% 達成されることを切に願っているため、引き続き粘り強くご指導願いたい。また、企業への定着率上昇指導をお願いしたい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方が協議会に参加していただいているが、このような協議会を見たことがない。素晴らしいことなので継続していただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学校改革の取り組み	<p>(1) 平成 29 年度全学年 ES (エンパワーメントスクール) の確立を見据え、人権教育を中心とした教育実践及び「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」による合理的配慮の実施と「ともに学びともに育つ」学校づくりを推進する。</p> <p>ア基礎学習の定着と自学自習学習の確立を目的にカリキュラム充実を図る。</p> <p>イ外部団体との連携強化を図り、生徒支援の充実を進める。</p> <p>ウ「校訓」をモットーとして「命を大切にす教育」を推進し、生徒支援充実を図るとともに「人間力」向上を目的に生徒指導・進路指導等充実を図る。</p> <p>エ校内環境の充実</p>	<p>ア、イ 改編作業の取組を明確化するために平成 26 年度より分掌化させた総合学科部を中心に改編を進めてきた。さらに本年度は平成 29 年度全学年 ES 在籍、総合学科へ完全移行に向けて、教育委員会再編整備課との協議、ES5 校の連携強化を積極的に図り、予算編成・カリキュラム編成・施設のリフォーム等具体的・迅速的な準備を行う。</p> <p>ウ、学校行事での入学式などの式典や各学期の始業式などで折に触れ生徒・保護者・地域の方を始め、ホームページなどで発信する。</p> <p>また、「人間力」の向上や「社会で活躍する」人材育成を目的に、西成警察署・中小企業同友会・地元地域教育団体との連携強化を進め、より実践的な生徒指導・キャリア教育の充実を図る。</p> <p>エ、平成 26 年度後期から実施した～西成クリーン day～の充実と具体的整備に向けた教育委員会と協議を継続する</p>	<p>ア、イ 生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目、27 年度 2 年生肯定感 63% から 28 年度 3 年生肯定感 70% をめざす。</p> <p>ウ、保護者向け学校教育自己診断における「西成高校は教育方針をわかりやすく伝えている」平成 27 年度 2 年生肯定感 79%平成 28 年度 3 年生肯定感 85%めざす。</p> <p>エ 保護者向け学校教育自己診断における保護者向け「西成高校に入学させて満足している」平成 27 年度 2 年生肯定感 76% から 3 年生肯定感 80%をめざす。</p>	<p>ア、イ 平成 29 年度全学年 ES 総合学科へ完全移行の準備として、会議室や第 2 応接室・旧芸術教室を多目的室に空調設備も含めて整備して授業可能教室確保した。また、生徒支援委員会の迅速的な対応と S S W や S C を積極的に活用した。</p> <p>*27 年度 61%から 3 年生肯定感 65%(△)</p> <p>ウ、HP 週 1 回の発信とモニターの活用に努めた。また、西成区役所・西成警察署・中小企業同友会・地元地域教育団体との連携強化を積極的に進め、実践的な生徒指導・キャリア教育を充実させた。</p> <p>*平成 27 年度 2 年生肯定感 79%から平成 28 年度 3 年生肯定感 82%(△)</p> <p>エ、昨年度夏に整備工事が完了した福祉実習教室を活用しての授業や整備した多目的室での地元小学校との連携による車椅子実習授業を展開することができた。また、老朽化によって不十分な施設もあるが西成クリーン day の定着や工夫で一定の環境は保たれている。</p> <p>*平成 27 年度 2 年生肯定感 76%から 28 年度 3 年生肯定感 82%(○)</p>
2. 進路を切り開く確かな学力の育成	<p>(1) 「めざす西成高校授業像」を確立し授業力向上を図る。</p> <p>ア授業アンケートを活用した授業改善の推進と「西成授業基本改善プラン」をもとに授業力向上を図る。</p> <p>(2) キャリア教育、人権教育等総合的な進路計画を立案する</p> <p>アこれまでのチャレンジ等の取り組みをさらに充実させて「産業社会と人間」の研究も含めた進路指導計画を策定する。</p> <p>イ 外部団体との連携及び人材を活用して、主体的に進路選択ができるよう様々な機会を設定する。</p>	<p>(1) ア、6 月と 12 月に授業アンケートを実施しアンケート結果をもとに授業改善を進める。また、NAC において平成 27 年度再検討した「西成授業基本改善プラン」の実施と「西成授業力向上チーム」を発足してさらなる授業力向上を図る。</p> <p>(2) ア、校内改編 PT の総合学科部や NAC での検討を進めるとともに、他府県の先進的な取り組み校への視察を行い、参考プランの研究、試行等行い平成 29 年度末 (全学年 ES) までの進路指導計画の検討に着手する</p> <p>イ、C ステップとの連携による、年間通じての自立支援コース生や配慮の要する生徒のインターシップや中小企業家同友会からのキャリア教育支援として、各企業の代表者の方を招いての講演や交流会の開催等行い連携を強化する。また、地元地域団体・就職企業との連携を深めるとともに、PT を立ち上げて就職後の追跡調査を実施してより丁寧な進路指導をめざす。</p>	<p>(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 27 年度 2 年生肯定感 62% から 28 年度 3 年生 70%をめざす。</p> <p>(2) ア、イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 27 年度 2 年生肯定感 72% から 28 年度 3 年生 80%をめざす。また、学校幹旋就職決定率を 6 年連続 100%をめざす。</p>	<p>ア、授業力向上を積極的に図ることを目的として NAC (将来構想委員会) を解散して、授業力向上 PT を立ち上げて、教職員全員参加の研修会の実施など取り組んだ。</p> <p>*平成 27 年度 2 年生肯定感 62%から 28 年度 3 年生 62%(△)</p> <p>ア、イ 学校幹旋就職決定 100%をめざすが、就職決定率だけでなく、就職先での定着率向上をめざした進路指導計画の改定に着手している。また、C ステップや中小企業家同友会との連携事業も進めることができた。</p> <p>*平成 27 年度 2 年生肯定感 72%から 28 年度 3 年生 78%(△)</p> <p>*学校幹旋就職決定率は、3 月 17 日現在 78%(○)</p>

府立西成高等学校

<p>3. 規律・規範の確立と豊かな心の育成</p>	<p>(1) 規範意識やモラルの醸成を高める取り組みを推進する。 ア 公共のマナールールを守るなど規範意識の醸成を図る。</p> <p>(2) 学校行事や部活動を通じて互いに信頼し尊重できる人間関係構築を図る。 ア 生徒会活動、学校行事、部活動など活性化させる。</p> <p>(3) 人権教育、シチズンシップ教育を充実させる。 ア 人権意識向上を目的に、総合学科への改編も含めて、3年間を見通した人権教育、シチズン教育を推進する。</p>	<p>(1) ア、教員による毎朝の正門での登校・挨拶指導に加えて、生徒会や部活動部員による「挨拶運動」及び「地域清掃活動」を実施する。また、西成警察署・地元教育外部団体・小中学校等との連携強化を進めて「社会貢献活動」経験機会の設定を行う。</p> <p>(2) ア、部活動紹介、部活動体験会の充実や「西成教育フェスタ」での地元中学校招いての新種目を含めた大会を開催する。また、校内リーダー研修の検討や校内合宿を推進する。</p> <p>(3) ア、人権教育推進部を中心に、これまでの西成高校人権教育の実践を基盤に、総合学科部・学年・進路指導部との連携を深めて人権教育計画を策定する。</p>	<p>(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して自分の生活習慣はよくなっているとおもう」項目で平成 27 年度肯定感 2 年生 56%から 28 年度 3 年生 65%をめざすまた、平成 27 年度大幅に減少した「遅刻」や「欠席」数をさらに 28 年度 30%減少をめざす。</p> <p>(2) ア、平成 27 年度部活動の入部率 38%から平成 28 年度 40%をめざす。</p> <p>(3) ア、生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切にし、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 27 年度肯定感 2 年生 72%から 28 年度 3 年生 80%をめざす。</p>	<p>(1) ア、生徒会や部活動部員が中心となって、地元地域団体との連携事業（東北へのボランティア活動・演奏会・交通安全指導等）に参加するなどして、積極的に「社会貢献活動」に取り組むことができた。また、生活指導部と学年・担任が連携して遅刻数欠席数減少に努めた。</p> <p>*平成 27 年度肯定感 2 年生 56%から 28 年度 3 年生 48%(△) 2 学期末の遅刻数・欠席数合計 平成 27 年度遅刻数 9272→28 年度 5630 平成 27 年度欠席数 9448→28 年度 8230 (○)</p> <p>(2) ア、生徒会が中心となって、入部率上昇に向けて部活動紹介や体験会など工夫改善を試みたが入部率は目標には届かなかった。</p> <p>*平成 27 年度部活動の入部率 38%から平成 28 年度 38%(△)</p> <p>(3) ア、総合的な学習時間、LHR を中心にこれまでの西成人権教育をベースにより理解しやすい教材開発を行うなど積極的に取り組んだが目標に届かなかった。</p> <p>*平成 27 年度肯定感 2 年生 72%から 28 年度 3 年生 73%(△)</p>
<p>4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 地震や津波対策を含めた防災計画の精選、危機管理体制を検証する。 ア 地震や津波に対する新たな行動マニュアルを検討する。 (2) 生徒支援(教育相談)体制を充実させる。 ア 課題を抱えた生徒や保護者に対して、適時・適切な指導体制の確立と外部団体等との連携協働体制をつくる。 イ ケース会議や連絡協議会に参加し、支援を強化する (3) 広報活動を活性化させ、信頼される学校づくりを推進する。 ア 中学校等への広報活動を充実させる。 イ 地元中学校との連絡協議会の開催を継続し、連携を深める。 ウ ホームページの更新スピードをアップさせ、情報発信を強化する。 エ 第 10 回「西成教育フェスタ」を充実させ西成区地域社会教育力向上をめざす</p>	<p>(1) ア、平成 27 年度再検討した地震及び津波を含めた防災計画の充実と行動マニュアルに地域住民や障がい者をも対象とした内容検討と避難訓練を策定する。</p> <p>(2) ア、イ 生徒支援委員会に各学年や各委員会からの情報を集中一元化させ適時・適切に対応する。また、配置された SSW・SC 活用の確立と情報の共有や「となりカフェ」等の外部団体等とのさらなる連携強化を推進する。</p> <p>(3) ア、イ 入学前・各学期のテスト期間や長期休暇中の機会に中学校訪問の実施及び連絡協議会を開催する。 ウ、27 年度刷新したホームページの最低週 1 回の更新をめざす。また、発信件数増の定着とタイムリーな学校メールマガジンの発信をめざす。 エ、第 10 回「西成教育フェスタ」を記念行事として新たな企画の検討・充実を図る。また、別途中学校との連携の企画や大学との連携を検討する。</p>	<p>(1) ア、(2) ア、イ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成 27 年度 2 年生肯定感 72%から平成 28 年度 3 年生 75%をめざす。</p> <p>(3) ア、中学訪問件数年間約 300 件以上をめざす。 イ、27 年度末に出身中学校中学校対して広報活動や本校の取り組みについてのアンケート調査を行い、具体的広報活動や取組みを改善する。</p> <p>ウ、学校教育自己診断で「西成高校はホームページで情報伝えている」保護者の肯定感 70%をめざす。 エ、第 10 回教育フェスタ観客者によるアンケート肯定感 100%をめざす。</p>	<p>(1) ア、(2) ア、イ 9 月の 880 万人訓練同日に本校学校保健委員会部活動有志による「車いす活用生徒含めた避難訓練(本校から天王寺公園まで)を実施して、避難経路等検証した。また、SSW・SC を有効かつ迅速的に活用できるよう生徒支援委員会を充実させた。ただ、ここ数年学校居場所作り事業「となりカフェ」開催の予算が 12 月末まで確定できずで、連携支援が以前にくらべて少し希薄になったと思われる。</p> <p>*平成 27 年度 2 年生肯定感 66%から平成 28 年度 3 年生 68%(△)</p> <p>(3) ア、10 月に広報を目的に全教員による中学校訪問を実施した。また、部活動の交流や生徒指導にかかる情報交換で積極的に連携した。3 月末には、新入生出身中学校を全教員による中学校訪問と具体的広報活動のアンケート調査を行う予定である。</p> <p>*3 月 17 日現在訪問件数 350 件(○) ウ、ホームページについては、担当部署である広報企画部の努力によって、迅速的に更新され概ね達成することができた。</p> <p>*保護者の肯定感 71%(○) エ、教育フェスタにおいては、新たにバトミントン大会の開催や記念事業として、芦屋大学比嘉学長による記念講演も実施することができた。</p> <p>*観客者によるアンケート肯定感 100%(○)</p>
<p>5. 学校運営組織の再構築</p>	<p>(1) エンパワーメントスクール(総合学科)への改編を見据えた学校運営組織を再構築する ア 校務分掌体制の再構築及び責任・権限を明確にする職務体制を確立するとともに平成 29 年度末校内組織体制を検討する。</p>	<p>(1) ア平成 29 年度全学年 ES、総合学科完全移行をめざす</p>	<p>(1) 教員向けアンケート「中退防止に向けて全教職員により取組みを行っている」平成 27 年度肯定感 64%から 28 年度 75%をめざす。 ※1～5 までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率 8%未満をめざす。</p>	<p>(1) 今年度は特に授業力向上に力点を置いて運営組織の再構築や教員の負担軽減を目的に会議の時間削減を実施したが、議案や実施内容の検討が不十分な結果となり一体的な取組みが不十分であった。</p> <p>*平成 27 年度肯定感 64%から 28 年度 51%(△) ※中退率 8%未満可能性十分にある。</p>